

# 2024(令和 6)年度入学試験問題

## 国 語

(注意) 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

盈 進 中 学 校

一 次の \_\_\_\_\_ 線部の漢字をひらがなに、カタカナを漢字に直しなさい。

- ① 海の幸を使った料理。
- ② 一部始終を説明する。
- ③ その建物は焼失した。
- ④ 辺り一面の花畑。
- ⑤ この役割を君に委ねる。
- ⑥ 看病のおかげで解熱した。
- ⑦ 墓前に花を供える。
- ⑧ 会社の存亡にかかわる。
- ⑨ 常に無関心を装う。
- ⑩ 旅先で干物を買う。
- ⑪ ジョク可能な取り組み。
- ⑫ このキンカは本物だ。
- ⑬ 書類を大切にホカンする。
- ⑭ クマの置き物。
- ⑮ 学問をオサめる。
- ⑯ ホンリョウを發揮する。
- ⑰ レキゼンとした差がある。
- ⑱ フランスからワインをユニユウする。

- ⑱ オサナいころの思い出。
- ⑳ 足りない部分をオギナう。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

マンションのエレベーターに乗ったら別の人が乗ってきた。名前は知らないが、ときどき顔を合わせることはある。まったく知らないわけではないから、黙だまっているのも不自然だが、何を話したらいいかわからない。結局、エレベーターの中で気まずい雰ふん囲い気きのまま一言も口をきかずに降りてしまった。こんな経験は誰だれしもがあるはずです。

こんなとき、相手と話をするいちばん無難な手段は、挨拶あいさつです。「**a**」「あつ、どうも」みたいなやりとりがあつて、「**b**」「そうですね」などと言っているうちに自分の降りる階がきて、「**c**」と相手と別れてホッとする。

相手が赤ちゃんを抱だいた女性だったり、ペットの犬を連れていたりしたら、「**d**」と声をかけるといふ手もあります。このように会話というのは、相手と話し手、時と場合などのさまざまな条件によって成立するものなのです。

では、① **ぼく**からは日常生活でどんな会話をしているのか。

実は、ぼくたちが会話で使っている言葉には、その言葉本来の意味とは違ちがう使い方しているものがとても多いのです。

大学の授業中、一人の学生が講義そちのけで携けいたい帯でんわ電話をいじっている。それを見つけた**ぼく**が、つかつかと学生の前に行って「それは、何だ？」ときく。言葉どおりに解釈かいしゃくすれば、**ぼく**の問いに対する学生の答えは「はい、これは携帯電話です」となるはず。

でも、学生が「はい、これは携帯電話です」と答えたなら、**ぼく**は「そんなことはわかってる！」と怒ります。なぜなら、**ぼく**の言う「それは、何だ？」は「講義の最中に勝手に携けいたい帯でんわなんかいじるんじゃないよ」という意味なので、学生は「あつ、すみませんでした」と謝あやまらなくてはいけないからです。

部屋に入ってきたお客さんが汗あせを拭ふきながら、「いや、暑いですな」と言ったとします。これに対して「本当に暑いですな」と応対するだけだったら、その人は内心ムツとするでしょう。彼かれは「暑いですな」という言葉で、「**②**」という気持ちを伝えているからです。

言葉を本来の意味どおりに伝えないというのは、何も日本語だけに限ったことではありません。たとえば、英語には「Do you have a watch?」という言い方があります。でも、これは「時計を持っていますか?」ときいているわけではない。「今、何時ですか」という意味なんです。だから、そうきかれたら「今は〇時〇分です」と言わなくてはいけません。

もうひとつ、会話には大きな特徴があります。それは、会話には意味のないやりとりが非常に多いということです。

先に触れた挨拶の言葉はその典型です。「やあやあ」「どうもどうも」「こんばんは」「はい、こんばんは」という会話には何の意味もない。これを百万回繰り返しても、お互い、何の情報も得られるわけではありません。

みなさんの大好きなメールのやりとりも似たようなものです。電車に乗りこんできた女の子が、すぐに携帯を取り出して熱心にメールをはじめました。どうやら、さつき駅で別れた友だちへのメールのようです。でも、その内容は――、

「今、電車乗った」

「混んでる?」

「めっちゃ混んでる」

「座れた?」

「うん、ラッキー」

といった「どうでもいい」とりとめのないやりとりが延々と続くのです。

ムダなやりとりの典型的な例が恋人たちの会話でしょう。③夜、公園のベンチに座った恋人たちが、うつとりとした表情で夜空を見つめています。

「星がきれいだね」

「ほんとね」

「寒くない?」

「ううん、平気。それより、昼、私の作ったオムレツ、おいしかった？」

「おいしかったよ」

「よかった。また、今度作ってあげる」

いやはや、この二人、④本当にムダなことばかりしゃべっていると思いませんか？

星がきれいかどうかは見ればわかることだし、寒いんだったら、自分からカーディガンを羽織ればいいし、オムレツがおいしかったかどうかは、食べているときの彼の反応を見れば⑤です。

要するに彼らの会話はほとんど意味がない。お互い何も伝えていません。でも、それで構わないんです。なぜなら「星がきれいだね」「オムレツ、おいしかった？」という会話は、「ぼくは君が好き」「私もあなたが好き」と言っているのと同じことだからです。さっき説明した、本来の意味とは違う言葉を恋人たちはしゃべっている。A、何をしゃべっても「好きだ」「好きよ」になってしまっ

んです。  
しかし、言葉というのは本来、コミュニケーションの道具であり、情報交換の手段であるはずです。ムダ話というのは、いくら話したところで自分の知識が増えるわけでも、利口になるわけでもありません。なのに、こんな意味のない会話ばかり交わしているのでしょうか？

B、こうした役に立たない会話というのが、実は、人間にとって非常に大切なんです。なぜなら、そうした会話を交わすことで人と人はつながることができるからです。みなさんがメールで、恋人たちが公園で、一見どうでもいいような話をしているのは相手との関係を確かめ合い、もっと関係を強めていきたいからなんです。情報のやりとりをするよりも、会話するという行為自体が人間にとっては、より重要なんです。

こうした人と人をつなぐ言葉の働きを、ぼくたち言葉の専門家はファティック（交話）と呼んでいます。

人類がどうして言葉を持つようになったのかは、今も謎のままですが、実はこのファティックが言葉の起源ではないか、という説が

あるんです。今から五万年前に明確な言語を手に入れたといわれるホモ・サピエンス（ヒト）は、集団で行動するようになりましたが、彼らがあつとも大切にしていたのは「お互いに一緒に生きていこう」という認識だったというんですね。

これは、とても魅力的な仮説です。この説が正しければ、言葉は本来、人と人が仲良くするための「**⑥**平和の道具」として生まれたいことになるからです。つまり、人間にとっていちばん大切なのは「やあやあ」や「こんばんは」といったおしゃべり言葉ということになってくる。

ひよつとしたら、ぼくたちの祖先からの「人間たち、仲良くしろよ」という贈り物が「言葉」というものなのかもしれません。

（金田一秀穂『15歳の日本語上達法』より）

### 問一

空らん

a

く

d

に入ることばを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（同じ記号は一度しか使えません）

ア ありがとう

イ こんにちは

ウ かわいいですね

エ 今日は暑いですね

オ じゃ、失礼します

### 問二

線部**①**「ぼくらは日常生活でどんな会話をしているのか」とありますが、筆者はこのあとの文章で日常生活における会話の特徴を二つあげています。次の空らん**I**・**II**に入る語句を指定された字数で本文中から抜き出さない。

・ぼくらは会話の中で言葉を

**I** 十三字

ことが多い。

・ぼくらの会話には

**II**

九字

が多い。

### 問三

空らん

**②**

に入ることばを「暑いですな」にこめられた「気持ち」を考えて書きなさい。

問四

線部③の「主語（主部）」と「述語（述部）」にあたる部分を、次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

「ア夜、イ公園のベンチに ウ座った エ恋人たちが、オうつとりとした カ表情で キ夜空を ク見つめています。」

問五

線部④「本当にムダなことばかりしやべっている」とありますが、メールの会話や恋人の会話において「ムダなことばかり」しやべる理由はなぜだといえますか。筆者の考えを「くから。」につながるように本文中から二十六字で抜き出し、最初の五字を書きなさい。

二十六字から。

問六

空らん ⑤に入る四字熟語を次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 一刀両断 いっとうりょうだん
- イ 一石二鳥 いっせきにちよう
- ウ 一触即発 いっしょくそくはつ
- エ 一目瞭然 いちもくりようぜん
- オ 一網打尽 いちもうだじん

問七

空らん A、Bに入る適切なことばを次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。（同じ記号は一度しか使えません）

- ア また
- イ だから
- ウ たとえば
- エ つまり
- オ ところが
- カ なぜなら

## 問八

本文の内容に合うものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 外国では、英語で時計を持っているかどうか聞かれることがたくさんあるけれど、それは時計の有無ではなく、コミュニケーションのためにはたずねているので、時計を持っていなくても構わない。

イ 会話における意味のないやりとりは、それを続けることによって相手の本当の思いに気づくことができるため、どうでもいい会話であっても、きちんとやりとりを続けた方がいい。

ウ 駅で別れた友達とのメールのやりとりは、電車に乗ったことに対する確認ではなく、恋人たちの意味のない会話と同じはたらくをする、とりとめのない会話である。

エ 長い歴史の中で、ホモ・サピエンス（ヒト）が言葉を持つようになった理由は明確であり、「やあやあ」や「こんばんは」といったおしゃべり言葉が何よりも重要だとされた。

問九 線部⑥「平和の道具」とありますが、あなたはこの文章を読んだあと、「平和の道具」について考えを深め、自主学习ノートのまとめました。

「平和の道具」の意味を考える

私は、この文章の最後にある「平和の道具」という表現に注目しました。筆者は、「言葉」が「平和の道具」として生まれたのではないかと述べているのです。

私もこの文章を読んで、「言葉」にはとても大きな力があ

ると思いました。そして私たちが学校で英語という「言葉」

を学んでいることにも意味があると考えました。それは

X

また昨日、新聞を読んで下の投書の記事を見つけました。

この記事を読むと「言葉」以上に大切なものがあることに

気づかされます。それは

Y

です。

僕たちの古里、三次市甲奴町と縁のあるシミー・カーター米元大統領の出身地ジョージア州アメリカス市の方たちが来られて、国際交流をしました。交流の計画を立てる時、僕は英語は好きだけれど話すのが苦手なので不安でした。当日は緊張して口が動かず、何をすればよいか分かりませんでした。でも慣れてくると、言葉はあまり出てきませんでした。ジェスチャーをしたら何となく理解してもらえました。言葉が話せなくても、伝えようという気持ちがあれば、国際交流ができることが分かりました。すると、アメリカス市の人との交流が楽しいと思えるようになりました。また、私たち2年生は交流講座として、書道と茶道をしました。書道では仲良くしましょうという気持ちを込め、生徒とアメリカス市の方たち全員で「平和」と書きました。最初の不安は消え、交流が終わるころには楽しい出来事として、忘れられなくなっていました。(三次市)

2023年9月2日 中国新聞ヤングスポット

(1) 空らん X に入る「英語という言葉を学ぶ意味」について、あなたのことばで分かりやすく説明しなさい。

書くときの条件

- ① X に入る文章を、「それは」に続けて八十字以上百字以内で書きなさい。
- ② 文章は二文以上で段落を変えずに書くこととします。
- ③ 文字は濃く、大きく、ていねいに書きなさい。

(2) 空らん Y に入る語句を新聞記事から十字で抜き出して答えなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

主人公の岳はライバルの涼万とともにバスケットボール部で活動している。岳が通う中学校ではもうすぐ合唱大会がある。岳は幼なじみの金田晴美（岳は晴美をキンタと呼んでいる）にオンチであることを指摘し、泣かせてしまう。

週明け、岳は部活の朝練に向かった。まだ痛みが残っていたので、普通の練習は見学するつもりだったが、ひとりでシュートを打つくらいなら出来るかと思った。

本当は安静にした方がよいのかも知れない。でも、部活を休んでいるあいだに、涼万に抜かされるわけにはいかない。絶対に嫌だ。今日も朝練の開始時間のずいぶん前に、体育館に入った。誰もいない体育館は i として、バスケットシューズが立てる、キョッキョッキョという足音さえ、天井に立ち上っていく。

ゴールの前に身構える。ゴールを見据えて打とうとした瞬間、白いバックボードに晴美の顔が現われた。急に力が抜けて、中途半端になってしまったシュートは、ゴールまで届かずにバウンドしていった。ボールがバウンドしていく音が、胸に ii と響いた。あれからずっとこうだった。

あの晴美の涙が、何度も何度も※フラッシュバックしてきて、どんなに払おうとしても、気づくと晴美のことを考えていた。朝露に濡れたうぶ毛の生えた葉っぱに、一粒の大きなしずくがきらりと光っているようだった。くそつ。切り替える。

今はバスケの練習をしているんだぞ。  
自分で自分を※鼓舞する。

そのあと、十発打ったが、一発もシュートを決められなかった。こんなことは初めてだった。サポーターをした右膝をのぞき込んだ。こないだ隼人と公園でシュートしたときは、なんの違和感もなかったのに、今日は少しおか

しい。

そつと曲げたり伸ばしたりしてみる。やはり、痛みがある。岳はゆっくりとその場に腰を下ろした。体育館の床はひんやりとしていて、尻から背筋の方に冷たさが伝っていった。

両膝に顔を埋めると、ハツカみたいな湿布の匂いが鼻をスースーさせた。もう一度顔を上げる。バスケットゴールを見上げた。先輩たちにまぎって、涼万が放った見事なシュートがよみがえった。

なんであいつのプレーは、あんなにスマートなんだろう。

認めたくはないが、涼万のことを羨ましいと思っっている自分がいた。

① どうしてなんだ、あいつはたいして努力もしていないのに……。

今はまだ、かろうじて力は拮抗している。でも、もし、涼万が本気でやり始めたら、いつか **iii** と差をつけられてしまうのでは……。

ため息を長く静かに吐いた。息を吐いても、胸はちつとも軽くならなかった。

しばらくぼんやりしていると、体育館の脇を何人かの生徒が話しながら歩いている声が聞こえた。合唱の朝練に行く生徒たちだろうか。だとすると、間もなくバスケット部員もやって来る時間だ。岳はのっそり立ち上がった。

やがてバスケット部の朝練が始まり、岳は壁にもたれて見学していた。先輩たちのプレーを目で追いながらも、気持ちは遠くに離れていた。岳はこっそり体育館を抜け出した。

もう合唱の練習が始まっているのか、校舎のそこから、歌声が漏れ聞こえた。合唱の朝練をしているのは、うちのクラスだけではないらしい。晴美のことが気になって、岳の足は自然と教室に向かっていた。

少し緊張しながら校舎の階段を上がる。三階まで上がって、一息ついた。五組が一番手前の教室だから、すぐそこだ。なるべく教室から離れた廊下のすみっこを **iv** と進んで、びっくりした。教室はからっぽだった。

あれ？ みんなどこ行ったんだ？

**a** をかしげると同時に、廊下の一番奥の音楽室から、『ソノリテイ』のピアノ伴奏が聞こえてきた。五組の練習は、音楽室でやっているらしい。

岳は音楽室のそばまでやって来た。幸いにもドアが閉まっているので、中からは見えないはずだ。**b** をそばだてる。こないだ部活の朝練が終わったあと、廊下で聞いたときは、晴美の音がすごく目立っていた。そして、ついオンチのことをばらしてしまった。

ひよつとして、あの会話がキンタに聞こえてしまっていたのか？ そうに違いない。それであいつ、あんなに怒ってたんだ……。

岳はうなだれた。そして今、晴美の音が全然目立って聞こえてこないことに、さらにうなだれた。

あいつ、オンチのこと気にして、歌ってないのかも知れない。

首にかけてたスポーツタオルを、両手でグツと引つ張った。気づくと、曲が終わっていた。

「今の、とっても良かったと思います。もう一度やりましょう」

指揮者の早紀の声だ。

「待つて。ちよつと提案があるんだけど」

今度は音心の声だ。

「五組の合唱、すごく良くなったと思うけど、どのクラスもどんぐりの**c** 比べで、絶対に勝てるってところまでは、いつてないと思うんだ」

みんなが少しざわついた。

「だから勝つには、奇策がある。で、提案なんだけど、最初の四小節のAメロって、三回繰り返しがああるよね。その二回目のAメロをソロでやったらどうかな」

「えっ、ソロ!？」

今度は一気に騒がしくなった。

「うん。正確に言うとはソロじゃなくてソリかな。ソプラノとアルトのふたり。たとえば伴奏はこんな感じで、すこし抑えめにして」  
そう言うとは音心は、アレンジしてさらさらとピアノを奏でた。

「おお。なんかいい感じだね」

教室がわいている。

岳は音心の即興演奏に、大きく息を吸い込んだ。きっと音心も涼万みたいな天才肌てんさいはだに違いない。

「なあ井川、それで誰がソリつつーのやんの？」

「うん。このふたりしかないと思っっているんだ」

教室の中のちよつとした緊張が、廊下まで伝わってきた。

「水野早紀と金田晴美」

反射的に岳の肩かたが跳ね上がった。

「えっ！」

晴美の大声が響く。それをスルーして、音心は続けた。

「早紀、ソリの間は指揮をせずに、前を向いて歌うんだ。出来るよね」

いちおう質問形だが、その言葉には有無を言わせない迫力はくりよくがある。おそらく早紀は、気圧けおされてうなずいたのだろう。

「金田もOKだよ。じゃ、早速やってみよう」

ざわついた空気が、すつとおさまった。前奏がまさに始まったとき、晴美が声を上げた。

「ごめん。わたし、やっぱり無理」

音心は演奏を止めた。

「どうして」

「出来ないよ。みんなに迷惑めいわくかけちゃう」

② 岳の胃のあたりが、きりきり締めつけられた。

いつも自信たつぷりで、あんなに目立つのが大好きなキンタが……。頼まれたことを引き受けないネガティブなキンタなんて、今まで見たことがない。

③ がまたフラッシュバックした。

宝石みたいに綺麗な涙が、玉の汗の中で光っている。

握りつぶされたみたいに、胸がギュッと苦しくなった。

キンタ、やれよ。あの天才井川が、お前がいいって言ってるんだから、だいじょうぶだよ。祈るような気持ちになった。

「誰か他の人……」

晴美の中途半端なつぶやきに、岳は思わず前のめりになって、音楽室のドアに手をかけた。

出来るよ、キンタがやれよ！

ドアを開けてそう言いそうになったとき、誰かが言葉を放った。

「なあキンタ、まずやってみようぜ。それでダメだったら、また考えればいいじゃん」

しばしの沈黙ののち、晴美の声が続いた。

「……うん」

教室に安堵のどよめきが広がった。

岳はそっとドアから手を離れた。しばらくそのまま、ぼんやりしていた。音心の前奏が始まり、合唱に入った。

涼万か……。

④ 岳はつま先を見つめた。さっきの声は間違いなく涼万だった。涼万のひとことが、晴美を勇気づけたのだ。

——はじめはひとり孤独こどくだった

気づくと、音心が提案したソリパートが始まっていた。岳はハツとして顔を起こした。

——ふとした出会いに希望が生まれ

新しい本当のわたし

未来へと歌は響ひびきわたる

音心の抑えめな伴奏にのって、早紀と晴美のふたりの声が重なり合う。

早紀の透すき通ったまっすぐなソプラノに、晴美の憂うれいのあるビブラートの効いたアルト。清らかさと切なさの相反あいはんするようなメロデーが混ざりあって、新しい音楽が生まれた。

⑤ 岳は知らず知らずのうちに、腕うでに立った鳥肌をさすっていた。

ソリパートが終わると、ほんの少し間を置いて全員での合唱が始まった。いつもとは迫力が違った。

岳は音楽室から離れた。歌が終わってみんなが出てきたとき、⑥ こっそりそばで聴きいていたことを知られたくなかった。

階段に足を落とすようにゆっくり降りた。だんだんと歌声が遠ざかっていく。やがて曲が終わったのか、大きな歓声かんせいと拍手はくしゅが聞こえた。きつと、ソリパートが大成功して、みんな盛り上がっているのだろう。

バスケの練習をしているわけでもなく、合唱でひとつになりつつあるクラスの一人にもなれていない。

俺おれ、何やってんだろ。

一階に続く踊り場おどで立ち止まった。どこかでずれたわずかな隙間すきまから、冷たい空気がすうすうと体に入ってくるみたいだった。はるちゃん、待てー！

保育園のころ、小さな晴美を追いかけたときのことが、※脈絡もなく思い出された。

汗をかいてもいないのに、首にかけたタオルで顔をこすった。

そのとき、上の方からバンバン音を立てながら、一段飛ばしで階段を降りてくる足音が聞こえた。足音は一気に近づいた。  
あ……。

目が合ったが、そらされなかった。踊り場の窓から差す朝日で、晴美の顔は輝いていた。額には玉の汗が浮かんでいる。

「音楽室の鍵、職員室に返しに行かなくちゃ」

聞いてもいないのに、晴美はそう言いながら、岳の前を通り過ぎた。

「キンタ」

※咄嗟に岳は呼び止めた。晴美が驚いたように振り返る。

「えっと、その……ゴメン！」

岳は※やにわに首からタオルをはぎ取ると、晴美に突き出した。

晴美は一瞬固まったが、タオルを奪うようにつかむと、額の汗を雑にぬぐった。そしてまた走り出すと振り向きざまに、タオルを岳に向かって放りつけた。

「早く着替えてこないと、遅刻になるよ」

タオルをキャッチした岳は、自分のトレーニングウェアを見下ろした。あつという間に晴美の姿が消えてしまうと、ようやく部室に足を向けた。  
(佐藤いつ子『ソノリテイ はじまりのうた』より)

※フラッシュバック……ふとしたきっかけで、突然昔のことを思い出すこと

※鼓舞する……はげまし、気持ちを奮い立たせること

※拮抗する……力に差がない者同士が、互いに張り合うこと

※脈絡もなく……前後のつながりもなく

※咄嗟に……その瞬間に

※やにわに……その場ですぐ

問一 空らん i iv に入る言葉を次からそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は一度しか使えません。)

ア ずんずん      イ そろそろ      ウ うん      エ どんどん      オ しん      カ りん

問二 線部①「どうしてなんだ、あいつはたいして努力もしていないのに……」とありますが、この言葉からは「自分は努力を続けてきた」という岳の思いを読み取ることができます。岳が努力家であることが分かる一文をここより前の本文中から抜き出し、最初の五字を書きなさい。

問三 空らん a c に入る体の一部の漢字一字を考えて入れなさい。

問四 線部②「岳の胃のあたりが、きりきり締めつけられた」とありますが、このときの岳の気持ちを説明したものととして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 晴美がソリを断ったのは、自分が晴美にオンチであることを指摘したからだと思い、自分の言動を後悔している。

イ 冗談で晴美にオンチだと言ったのに、晴美がその言葉を信じていることを知り、晴美に謝りたいと思っている。

ウ ソリができるのは晴美しかないとみんなわかっているのに、自分の冗談を真に受けて断る晴美に腹を立てている。

エ クラスのみんなからのお断りを断る晴美を見て、たとえオンチでも話を受けてほしいと心から願っている。

問五 空らん ③ に入る言葉を、本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問六 線部④ 「岳はつま先を見つめた」とありますが、この時の岳の気持ちとして適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 絶望感      イ 安心感      ウ 敗北感      エ 親近感      オ 無力感

問七 線部⑤ 「岳は知らず知らずのうちに、腕に立った鳥肌をさすっていた」とありますが、このときの岳の気持ちとして適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 決して上手とは言えない晴美を助ける早紀の清らかな歌声によって、美しいメロディーが生まれたことに驚いている。  
イ 音心が提案したソリが成功したことを実感し、クラスの仲間の団結力と合唱にかける意気込みいぎこみに感心している。  
ウ 早紀と晴美のソリが加わったことで新しい音楽が生まれたことに気づき、無意識のうちに感動している。  
エ 迫力があるクラスの合唱に圧倒あつとうされ、改めてクラスに自分が必要ではないということに気づき、落ち込んでいる。

問八 線部⑥ 「こっそりそばで聴いていたことを知られなくなかった」とありますが、それはなぜですか。その理由が分かる一文を本文中からさがし、最初の五字を抜き出しなさい。

問九 この物語の合唱の場面を読んで、クラスのみinnで話し合いをしました。空らん  にあなたの考えを書きなさい。

Aさん 私も歌うのが好きだから、この話を読んで、早紀と晴美のソリパートの歌声を聞いてみたくなったな！

Bさん 確かに！「清らかさと切なさの相反するようなメロディーが混ざりあって、新しい音楽が生まれた」って表現もすてきだね。

Cくん ぼくはこの歌の歌詞に注目したよ。歌い出しの「――はじめはひとり孤独だった」、これって、岳の今の状況に重なっているね。

Dさん そうだね、その続きの

「――ふとした出会いに希望が生まれ

新しい本当のわたし

未来へと歌は響きわたる」

この歌詞も、登場人物に重ねて読むことができるね。

あなた 私は晴美と重ねて考えてみたよ。

書くときの条件

- ① 晴美の心情と、歌詞の内容を重ねて考えたことを書きなさい。
- ② 十五字以上で書くこととします。

四

次の言葉を例にならってローマ字（ヘボン式）に直して答えなさい。なお、書き出しはすべて小文字とします。

- ① 馬車（ばしや）
- ② 果実（かじつ）
- ③ 食器（しょつき）
- ④ 貯金（ちよきん）
- ⑤ 古時計（ふるどけい）

例 盈進（えいしん）

eishin